江陵 初の決勝

旭川大に2―0

全道一懸け旭川実と激突

道高校新人バレー

バレーボールの第11回道高校新人大会（道バレーボール協会主催）最終日は7日、帯広市総合体育館で午前に男女の準決勝を行った。女子第4シードの江陵（道協会推薦）は、第1シードの札幌山の手（同）を3回戦で破った旭川大（旭川1位）に2―0で快勝し、初の決勝進出を果たした。十勝勢女子の決勝進出は第5回の帯南商以来、6大会ぶり。旭川大は、水崎純衣（1年、帯一中出）が先発出場した。江陵は、午後に第2シードの旭川実（道協会推薦）と全道一の座を懸けて対戦した。第2日は6日、同体育館など3会場で行われ、女子の帯大谷（帯広2位）は旭川大に、男子の白樺学園（同同）は第1シードで納彩杜（1年、帯翔陽中出）と鳥本来紀（同、芽室中出）がメンバー入りする東海大四（道協会推薦）に、いずれも準々決勝で0―2で敗れ、4強入りはならなかった。男子の帯三条（帯広1位）は2回戦で、第3シードの道尚志学園（道協会推薦）に善戦したがストレート負け。杉本龍也（1年、札内中出）がベンチ入りする第3シードのとわの森三愛（道協会推薦）は、準々決勝で札幌藻岩（札幌1位）に0―2で敗れた。（北雅貴、松村智裕）

【女子】▽準決勝（7日）

江陵 2（25―8、25―12）0 旭川大

旭川実 2（23―25、25―20、26―24）1 札幌大谷

【女子準決勝・江陵―旭川大】江陵は第1セット、④坂井和主将が冷静にフェイントを決めて6―2とリードを広げる

レシーブ安定し圧勝

大声援の後押しを受け、江陵がわずか30分余りで、同校の新たな歴史の扉を開いた。

攻守ではつらつとしたプレーを展開、全道規模の大会で初となる決勝への切符をつかんだ。

2セットを通じてレシーブが安定し、セッターの能地愛美（2年）がトスを散らす。ライトの平栗弥々（1年）やレフトの坂井和主将（2年）、センターの九本有希菜（1年）と黒田沙耶（2年）らの攻撃が面白いように決まった。

旭川大とは昨年末の全国私立高校選手権道予選会の準決勝で対戦。第1セットは難なく奪ったが、第2セットにブロックアウトや軟打、フェイントに苦しみ、結局ファイナルセットまでもつれ込んだ末の勝利だった。

福田まどか監督は「選手たちは気持ちが入っていた」と評価し、坂井主将も「（前回の）反省を生かし、自分たちのバレーができた」と喜んだ。

地元開催での決勝戦。昨年11月の全日本高校選手権大会（春高バレー）道代表決定戦で敗れた旭川実に雪辱を果たそうと、チーム一丸となって臨んだ。

【男子準々決勝・白樺学園―東海大四】第1セット、力強いアタックを打つ白樺学園の⑥吉田侑平

【女子】▽2回戦（6日）

帯大谷 2（25―12、25―23）0 深川西
札幌山の手 2―0 道大谷室蘭
旭川大 2―0 網走南ケ丘
恵庭南 2―0 市立函館
北見柏陽 2―0 釧路商
遺愛女子（函館） 2―0 とわの森三愛
旭川商 2―0 札幌国際情報
滝川 2―0 名寄
苫小牧中央 2―0 静内
札幌白石 2―0 美唄聖華
函館西 2―0 留萌
札幌北斗 2―0 芦別
北見柏陽 2―0 遺愛女子

▽3回戦

旭川大 2（25―15、19―0）0 旭川商
江陵 2（25―25、25―18）1 恵庭南
帯大谷 2（25―5、25―10）0 札幌山の手

▽準々決勝

旭川大 2（25―25、25―16）0 帯大谷
江陵 2（25―25、25―20）0 北見柏陽
札幌大谷 2（25―25、25―9）0 苫小牧中央
旭川実 2（25―21、17―11）0 函館西
札幌大谷 2―0 滝川
苫小牧中央 2―0 札幌白石
函館西 2―0 札幌北斗
旭川実 2―0 札幌北斗

部員7人で健闘

白樺学園男子

○…白樺学園男子は、準優勝した2009年度以来6大会ぶりのベスト4進出を、第1シードの東海大四に阻まれた。

相手の高さと多彩な攻撃に失点を重ねた。それでも身長187センチの房川隆貴（2年）と185センチの吉田侑平（1年）のダブルエースがアタックやブロックで立ち向かい、気持ちを切らさなかった。昨年12月中旬からセッターに転向した吉本勇斗主将（2年）は「まだまだレベルアップが必要」としながらも、安定したトスさばきで攻撃を指揮し続けた。

部員はわずか7人だがOBや女子部員の協力を得て、試合形式で練習に取り組んできた。中村康弘監督は「選手は懸命にレシーブをして、よく頑張った。パス力を高め、体力トレーニングなどでもっとレベルアップしたい」と次を見据える。吉本主将は「夏の高体連は十勝から1チームしか全道に進めない。まずは十勝の代表になって、全道4強に入りたい」と力を込めた。

V候補に食らいつく

帯三条男子

○…帯三条男子は、優勝候補に挙げられる道尚志学園に食らいついた。

第1セットは、高校から競技を始めた齋藤聡太（2年）の速攻や、横田柊斗主将（同）と大井啓夢（1年）のレフトからの攻撃がさえ、一進一退の攻防に。23―23に持ち込む粘りを見せたが、最後は身長180～190センチをそろえる相手のせたほか、セッター奥山璃久（1年）のトスから福田竜翔（同）が速攻を決めるなど、昨年11月の全日本高校選手権大会（春高バレー）道代表決定戦で4強入り